

# S822

タイヤチェンジャー  
株式会社プレミアタイヤサプライズ

取り扱い説明書

基本指示書

## EC マーキング 適合宣言書

ジュリアーノ インダストリアル 株式会社  
Via Guerrieri, 6 - 42015 コレッジオ (RE) イタリア

当社の責任においてこの製品が乗用車用タイヤ交換機であることを宣言します S822  
この宣言は以下の規定に適合しています。

### 2011/17/CE - 2006/42/CE -2014/30/EU

と同時に以下の標準にも合致しています。  
-EN 61000-6-3:2007+A1:2011+AC:2012  
-EN ISO 12100 : 2010 - EN 349:1993+A1:2008 -  
60204-1 :2006+A1:2009 + AC EN 61310-1:2008  
2010 -EN 61310-2:2008 - EN  
-EN ISO 4414:2010 EN 61000- 61310-3:2008  
6-2:2005+AC:2005



この適合宣言書の署名者は技術関連の書類発行権限を与えられた者です

Correggio, 14/07/2016

この適合宣言書の形式は EN ISO/IEC 17050-1

に定められたものです

GIULIANO INDUSTRIAL S.p.A.  
法務責任者  
Gianluca Maselli

## RoHS 指令 適合宣言書

ジュリアーノ インダストリアル 株式会社  
Via Guerrieri, 6 - 42015 コレッジオ (RE) イタリア

当社の責任においてこの製品が乗用車用タイヤ交換機であることを宣言します S822

この宣言は以下の規定に適合しています。

### 2011/65/EU (RoHS)

廃棄は下記の規定に従って行ってください。

### 2012/19/EU (RAEE)

また、この機械が設置され使用される各国の法規にも合致しています。

Correggio, 01/10/2015



GIULIANO INDUSTRIAL S.p.A.  
法務責任者  
Gianluca Maselli

## イタリア環境省令 RAEE 適合宣言書

ジュリアーノ インダストリアル 株式会社  
Via Guerrieri, 6 - 42015 コレッジオ (RE) イタリア

当社の責任においてこの製品が乗用車用タイヤ交換機であることを宣言します S822

この宣言は以下の規定に適合しています。

### 2012/19/EU (RAEE)

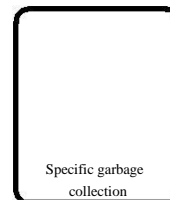
この機器は 2012/19/EU (RAEE) によって定められた規則の対象となる製品で、一般的な金属ゴミとして廃棄することは出来ません。しかし、特別な回収方法により、「Barred tank」マークのあるものは廃棄できます。廃棄処理は 2012/19/EU (RAEE) の規定は本より、機会が設置され仕様される各国の国内法にも従って行われねばなりません。規則に従わない廃棄処理方法を執った場合、それは法律違反となります。2012/19/EU (RAEE) に従わない間違った方法での廃棄や放棄は自然環境に対して深刻な害を与えます。

この機器の製造者は規則に従った方法で本機を廃棄できますので、弊社の廃棄サービスをご希望の場合は、弊社もしくは貴国の弊社商品の販売代理店にご連絡ください。

Correggio, 01/10/2015



GIULIANO INDUSTRIAL S.p.A.  
法務責任者  
Gianluca Maselli



## 目次

章	ページ
1.0	はじめに ..... 4
	1.1_タイヤ・チェンジャー情報 ..... 4
	1.2_製造者情報 ..... 4
	1.3_データ表示板 ..... 4
2.0	全般の説明 ..... 4
3.0	仕様 ..... 5
4.0	警告表示 ..... 6
5.0	安全規則 ..... 7
6.0	安全装置 ..... 7
7.0	輸送 ..... 8
8.0	開梱 ..... 8
	8.1_テイルティンク・タワーとビードブレーカー・アームの取り付け ..... 9
9.0	設置 ..... 12
	9.1_設置する場所の広さ ..... 12
	9.2_設置可能な環境 ..... 12
10.0	同梱されてくる部品・器具類 ..... 13
11.0	操作と試運転の表示 ..... 14
12.0	作業可能なリムとタイヤ ..... 15
13.0	バルブの位置 ..... 15
14.0	ホイールとタイヤの種類 ..... 16
	14.1_スタンダード・ホイール ..... 16
	14.2_低扁平率タイヤ (UHP) ホイール ..... 16
	14.3_ランフラット・タイヤ ホイール ..... 16
15.0	操作 ..... 17
16.0	ビード・ブレーキング ..... 17
	16.1_ビード・ブレーキング ..... 18
17.0	ターンテーブル・ロック測定の調整 ..... 19
18.0	ターンテーブル上でのホイールの固定 ..... 19
19.0	タイヤの取り外し ..... 20
20.0	タイヤの装着 ..... 21
	20.1_低ビード・マウンティング ..... 21
	20.2_高ビード・マウンティング ..... 21
21.0	空気充填 ..... 23
22.0	標準装備 ..... 24
23.0	オプション装備 ..... 25
24.0	再設置 ..... 26
25.0	保管 ..... 26
26.0	廃棄処分 ..... 26
27.0	オイルの処理 ..... 26
28.0	保守点検作業 ..... 27
	28.1_通常点検作業 ..... 27
	28.2_特別点検作業 ..... 27
29.0	故障原因発見チャート ..... 28
30.0	回路図 ..... 30
31.0	圧搾空気送風図 ..... 31
32.0	状況通知 ..... 32

## 1.0 はじめに

標準タイヤ脱着用の弊社タイヤ・チェンジャーをご購入いただき、誠に有り難うございます。  
本機の機能・効率性を正しくご理解いただき、本機を長い間ご愛用頂くために、このガイドに記載された指示を注意深くお読みいただき、よくご理解してください。

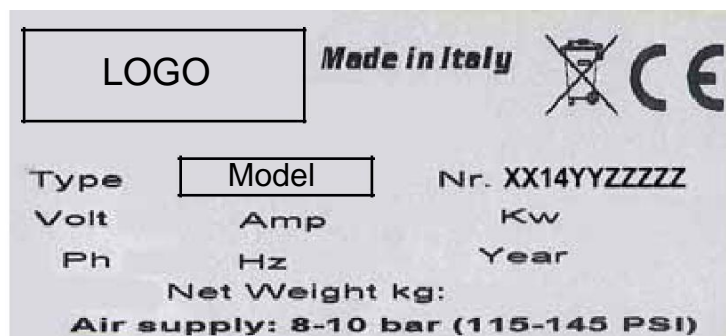
### 1.1 タイヤ・チェンジャーのデータ

弊社の技術部門へのお問合せや部品についてのご質問を下さるときは、ご用件の具体的内容とデータ表示板（以下に見本表示）に記載された本機の型式と製造番号をご連絡下さい。  
お客様に御手間を取らせないよう、外箱に下記のような貴殿のタイヤ・チェンジャーの資料を入れてあります。  
もしもタイヤ・チェンジャーのデータ表示板の記載内容と、このマニュアルの記載に齟齬がある場合は、データ表示板の記載内容をご参照下さい。

### 1.2 製造者情報

製造者に関する情報は、このマニュアルの2ページにある適合宣言書と本機のデータ表示板をご参照下さい。

### 1.3 データ表示板（参考例）



## 2.0 全般の説明

このタイヤ・チェンジャーは、普通車と軽自動車のタイヤを、10インチから21インチ、最大直径で930mmのリムと脱着する作業を行うための機械として設計製造されました。

このタイヤ・チェンジャーは乗用車と軽自動車用の規格タイヤ、スチール製リムもしくはアルミリムとの脱着作業の為に設計されました。

このタイヤ・チェンジャーは空気を充填したタイヤや汚れのひどいタイヤの取り外し、歪んだリムやスプリット・リング・リムの産業用ホイールからの取り外しを行わないでください。これらは禁止事項です。

このマニュアルは製品に不可欠な一部です。  
機械を安全に操作すると共に故障なく保持するためには、タイヤ・チェンジャーを使い始める前に、このマニュアルに記載された指示を注意深く読んでください。



このマニュアルは本機を使い続ける限り必要です。大切に保管してください。

注記) 実際の機械では、そのいくつかの部品や構成品が本書に記載された図と異なる場合がございますことをあらかじめご承知ください。

## 3.0 仕様

### 接続関係

-電源

200V 3相-0.75KW 標準仕様

当該機械に当てはまる電源仕様は、機械に貼られたデータ・プレートの記載で確認できます。

- 稼働圧力: 800-1000K P A
- 空気取り入れ口の圧力レギュレーターは 800-1000K P Aにセットします
- 空気充填圧力リミッターは 350K P Aにセットします

### 作業可能サイズ

- リム・クランプ (外側) 12 インチから 21 インチ
- リム・クランプ (内側) 14 インチから 23 インチ
- リム最大幅 11 インチ (320 mm)
- タイヤ直径最大値 930 mm

### ビード・ブレイカー データ

- 1000K P A時のビード・ブレイカー・シリンダー力: 30800 N (3140 kg)

### 設置場所に関するデータ

- 正味重量 (付属品のない状態) : 225 kg
- 操作可能温度帯: 最低 摂氏+5° C から 最高 摂氏+50° C

### 標準付属品 (24 ページ参照):

- ビードワックス
- ブラシ
- タイヤレバー
- チャッキングプロテクター
- マウント/ディマウントツールプロテクター
- ビード・ブレイカー・ブレイカカバー
- オイル+レギュレーター

### 梱包寸法

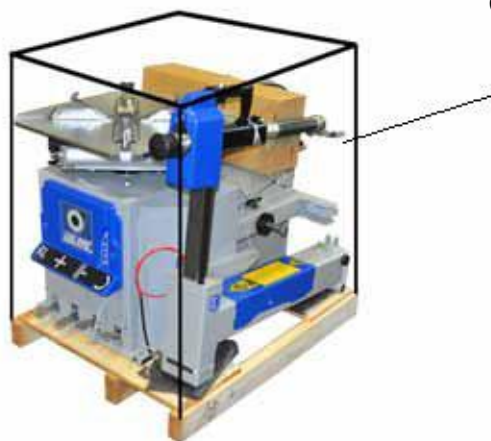
760

総重量 245 Kg  
(付属品を除く)

Carton

1  
9  
4  
0

1080



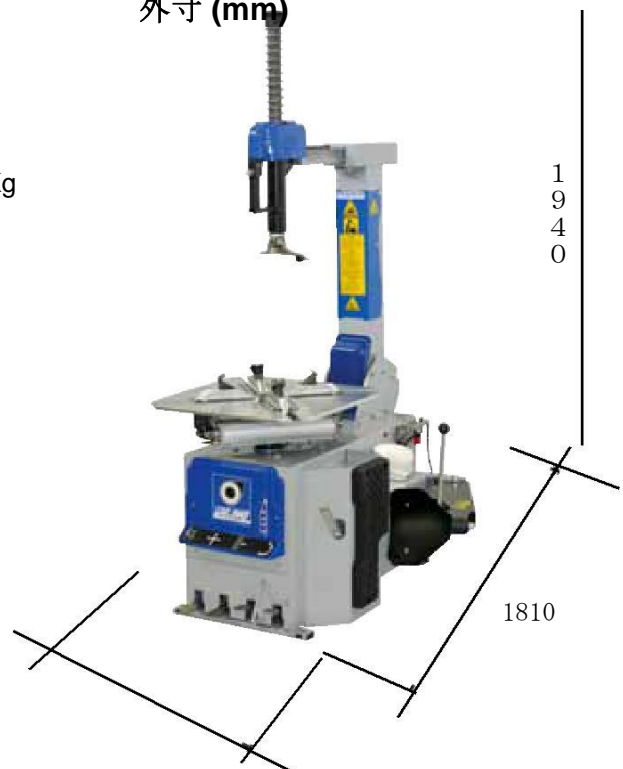
950

1

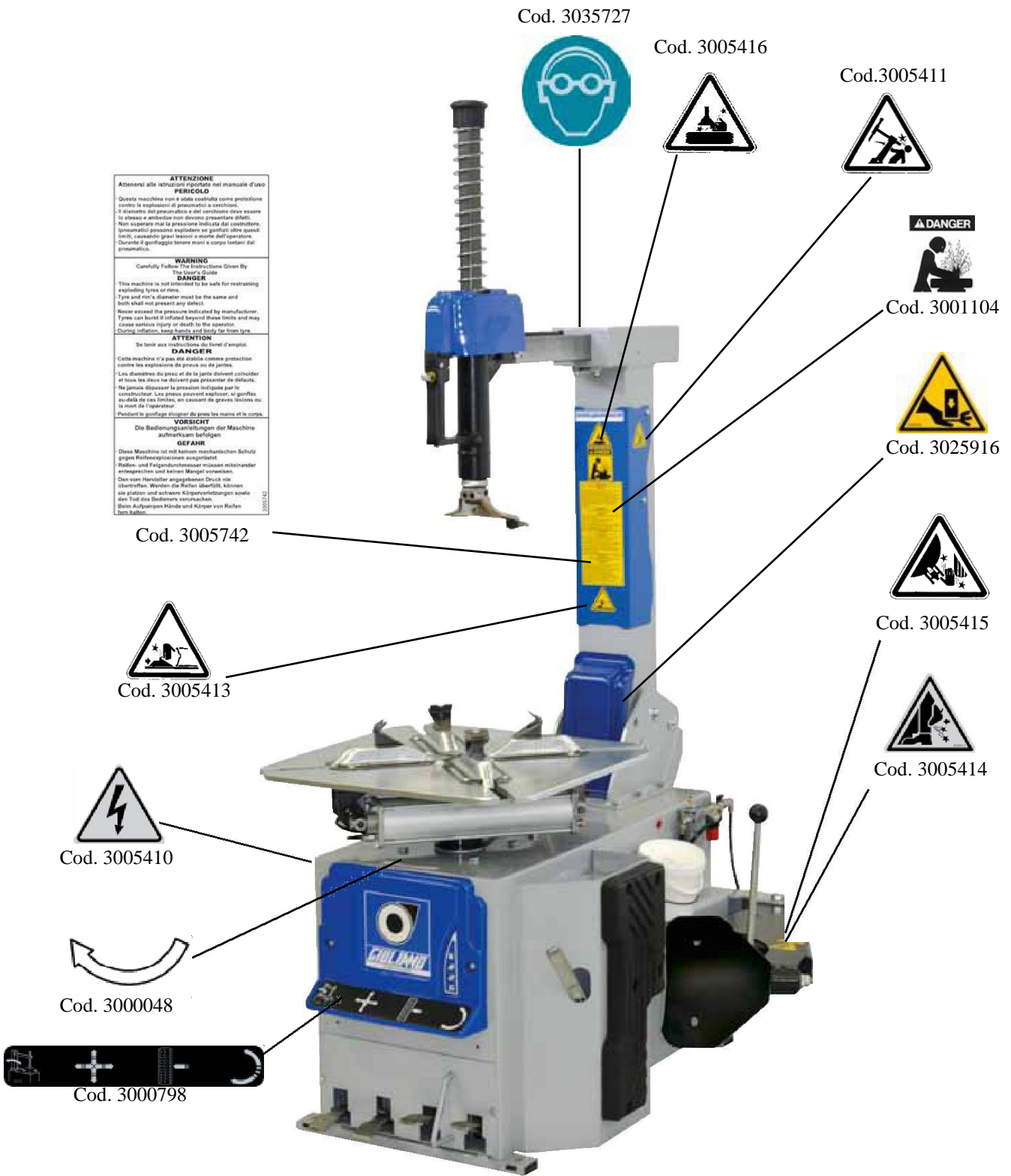
1251


5

外寸 (mm)



## 4.0 警告表示位置





**警告)**  
警告表示が剥がれる、若しくは読めなくなった場合は速やかに新しいものと貼り替えてください。  
警告表示が無くなった場合は、本機を運転しないでください。  
いかなる目的が有ろうとも警告表示を隠さないで下さい。警告表示の上に何かを貼るなど、警告表示の視認性を低下させるようなことは絶対にしないでください。

## 5.0 安全規則

タイヤ・チェンジャーは、その操作に適任であると承認された人物のみが使えます。

操作に適する人物とは、このタイヤ・チェンジャーの操作と保全について、メーカーが用意したこのマニュアルが伝える指示を完全に理解し、必要な機械操作の訓練を受け、作業場所の安全確保について注意を払える人の事です。

覚醒剤・アルコール若しくは他の薬物などへの依存（中毒）等、機械の正しい運転ができない可能性のある人には、決してこの機械を操作させてはいけません。

機械使用時の怪我を防ぐために、機械の操作をする人は安全靴・手袋・ゴーグルを着用し、手足や体の機敏な動きを妨げるような服装は慎んでください。

### オペレーターは以下のことが出来ねばなりません

- 機械を正しく安全に使うために、ユーザー・マニュアルに記載された全ての指示が読めて理解できねばなりません。
- 警告表示が読めて理解できねばなりません。
- 機械の特徴が理解できねばなりません。
- 機械の作業エリアから操作を許可されていない人々を排除できねばなりません。
- 機械の設置をすべての法規とルールに従って行うこと。
- 機械に十分精通すると共に、どのようにしたら機械を正しく安全に使えるかを知っていること。
- 稼働部分や加圧される部分に触らずに電源を切り、加圧を停止させられること。
- ユーザー・マニュアルをケースに入れて、すぐ手の届く場所に保管してください。そうすれば、見たい時に見られます。



タイヤ・チェンジャーは十分な訓練を受け、その操作を認められた人だけが稼働させられます。

- 操作ができない人に操作させることは禁止されています。そのことによって正規のオペレーターの安全が脅かされる可能性が有るからです。
- 製造者の許可を得ずに機械を改造した場合、製造者はその改造によってもたらされる事故や故障について如何なる責任も持ちませんし、損害の補償もいたしません。
- 最初から装着されている安全装置を許可なく外したり、改造した場合、品質保証は直ちに無効と成ると同時に、この行為はEUの定める安全基準違反となります。
- タイヤ・チェンジャーには製造時点の最新版警告表示が貼られています。時間が経過しますとステッカーも劣化しますので、そのようなときは貼り換え用の最新の表示ステッカーをリクエストしてください。



火災が発生した場合は、パウダー状の化学消火剤若しくは二酸化炭素（CO2）消火器を用いて消化してください。

	水 消火器	泡沫 消火器	粉末 消火器	CO <sub>2</sub> 消火器
乾燥した物体	OK	OK	OK	OK
引火性液体	NO	OK	OK	OK
電気・電子部品	NO	NO	OK	OK

## 6.0 安全装置

タイヤ・チェンジャーは、オペレーターの安全を保障するために安全装置を付けた機械です。

- 空気を充填するときに圧力が 350K P A を越えないよう、圧搾空気安全バルブが機械の内部に取り付けられています。
- 圧力レギュレーターと圧力計はサーキットの最大圧力を 1000K P A に制限します。

チューブレス・タイヤ空気注入デバイス（インフレーター）

- 空気圧が 1 1 0 0 K P A を越えないよう、制限用バルブ（安全弁）が空気タンクに取り付けられています。



安全装置の取り外し若しくは許可を得ていない改造を行った場合は、直ちに保証が無効となると共に、それはヨーロッパの安全法規違反となります。

## 7.0 輸送

- タイヤ・チェンジャーを移動させる場合、オリジナルの外箱に入れて初めて納品されたときと同様に梱包してください。
- 梱包された機械は機械の重量と大きさに見合ったフォークリフトを用いて動かして下さい。フォークは下の図1のように箱のしたに入れてください。

## 8.0 開梱

保護用のダンボールを取り出し、機械を固定しているネジを外し、機械をパレットから外せるようにしてください。機械が完全な状態であることを確認し、10 ページの図を参照してすべてのパーツに損傷や不足が無いことを確認してください。もしも破損や不足が見つかったら、機械を組み立てずに直ちに販売店に連絡して次の手続きを確認してください。

梱包材は子供の手の届く場所に置かないでください。梱包材は保管倉庫に保管してください。

注記) タイヤ・チェンジャーの表面は、保護のために特殊な防錆油が塗布されています。塗布後に余分な防錆油が液垂れしている場合もありますので、ふき取ってください。



総重量 245 Kg

図. 1

およそ 500kg の重量に耐えられるリフトを用いてタイヤ・チェンジャーを持ち上げてください。その際には必ず重量に耐えられる貨物ストラップ・ベルトを使って貨物が落ちないように固定してください。タイヤ・チェンジャーを設置場所に降ろしたら、ストラップ・ベルトを外してください。



## 8.1 支柱とビード・ブレイカー・アームの取り付け

タイヤ・チェンジャーの開梱後、以下に示す手順で垂直タワーを取り付けます。



支柱の土台をとめている4本のボルトを外します。



土台をずらして6本のボルトを締めてから、このように機械本体に固定します。



ピンを外して垂直タワーをこの土台に取り付けます。



クレーン、若しくはフォークリフト、あるいはリフティング・ベルトを用いて垂直タワーを起して土台にセットします。



支柱を固定するためにピンを再びホールに差し込みます。



ボルト・ナットを締めてピンを固定します。



手でティルティング・システムのシリンダー・ロッドの穴が垂直タワーの穴と一致するまで引きます。少しタワーを傾斜させてネジを穴に入れやすくします。それからナットを締めますが、少し緩くしておいてください。



垂直タワーが組み上がったらタイ・ロッドのネジを締めてください。



保護カバーを垂直タワーに取り付け、それを壊さぬよう慎重にネジを締めてください。



圧搾空気を送る黒色のパイプをロックン・シリンダーに繋がます。



圧搾空気を送る赤色のパイプを機械後部の接続部に繋いで支柱の組み立ては完了します。



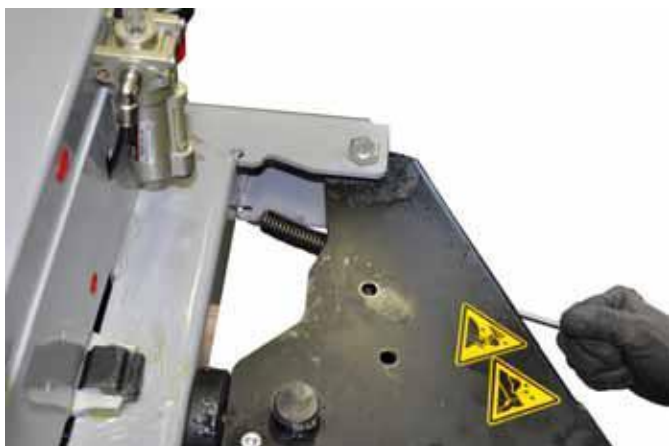
ホイールを保護するゴムのパッドを、予め機械に締め付けられていたネジで取り付けます。



ビード・ブレイカー・アームを所定の位置に取り付け、ネジとナットをはめて締めて取り付けます。アームが動くことを確認してください。



シリンダー・ロッドを所定の場所に入れます。延長されたドライバーでナットを締め付けます。



バネを本体に取り付け、バネを引っ張り、あるいはプライヤーを用いて反対側をビード・ブレイカー・アームの下部の穴に引っ掛けます。

## 9.0 設置

### 9.1 設置する場所の広さ

設置場所を選定するときは、作業安全基準を再確認してください。  
タイヤ・チェンジャーは主電源とエアークンプレッサーに接続できねばなりません。本機には電気と空気の供給が必要です。  
従ってこれらの供給元に近い場所ならば設置が可能です。  
設置する家屋は、図1にあるとおり、すべての機能を制約なしに使うためには最低限でもこの広さが必要です。

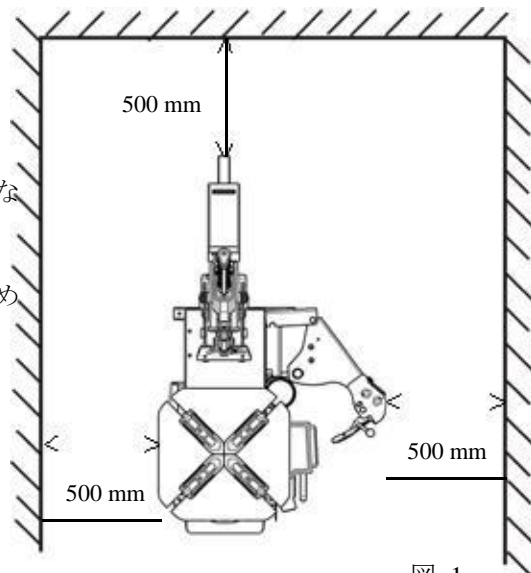


図. 1

### 9.2 設置可能な環境

タイヤ・チェンジャーが設置可能な場所は、水平で凸凹が無い滑らない床の屋内です。

機械をアンカーで床に固定する必要はありませんが、そのようにしたい場合は4つの100mmの深さの穴をドリルで床に開けます。ちょうど機械が乗っていたベースにある穴のように直径10mmのドリルでコンクリートにふさわしい深さの穴をあけてください。

金属のアンカーをドリルで開けた穴に打ち込み、確実に固定します。

屋外に機械を設置する場合は、丈夫な風雨よけで守らねばなりません。

設置場所には電気配線が必要ですし、十分なアースと16A以上のサーキット・ブレーカーも必要です。



機械に電源を接続する前に、設置場所の配電や圧縮空気の供給などの特性が、機械のデータ表示に記載されている内容と合致しているか否か、よく確認してください。



例え些細なことであっても、電気系統の検査や工事は、必ず電気工事技師に行ってもらってください。



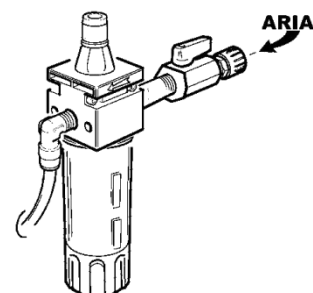
メーカーが指示している配線と異なる配線を行った結果生じた故障については、メーカーは責任を持ちません。



機械を移動させる若しくは保守点検するときは、必ずその前に電源及び圧搾空気の供給元から電源コードと圧搾空気のホースを外してください。

設置場所の圧搾空気の供給網は、少なくとも800KPAの圧搾空気を必ず継続的に供給出来ねばなりません。

- 機械の右側にあるオイラーを通じて機械と圧搾空気の供給源を接続してください。



## 10.0 同梱されてくる部品

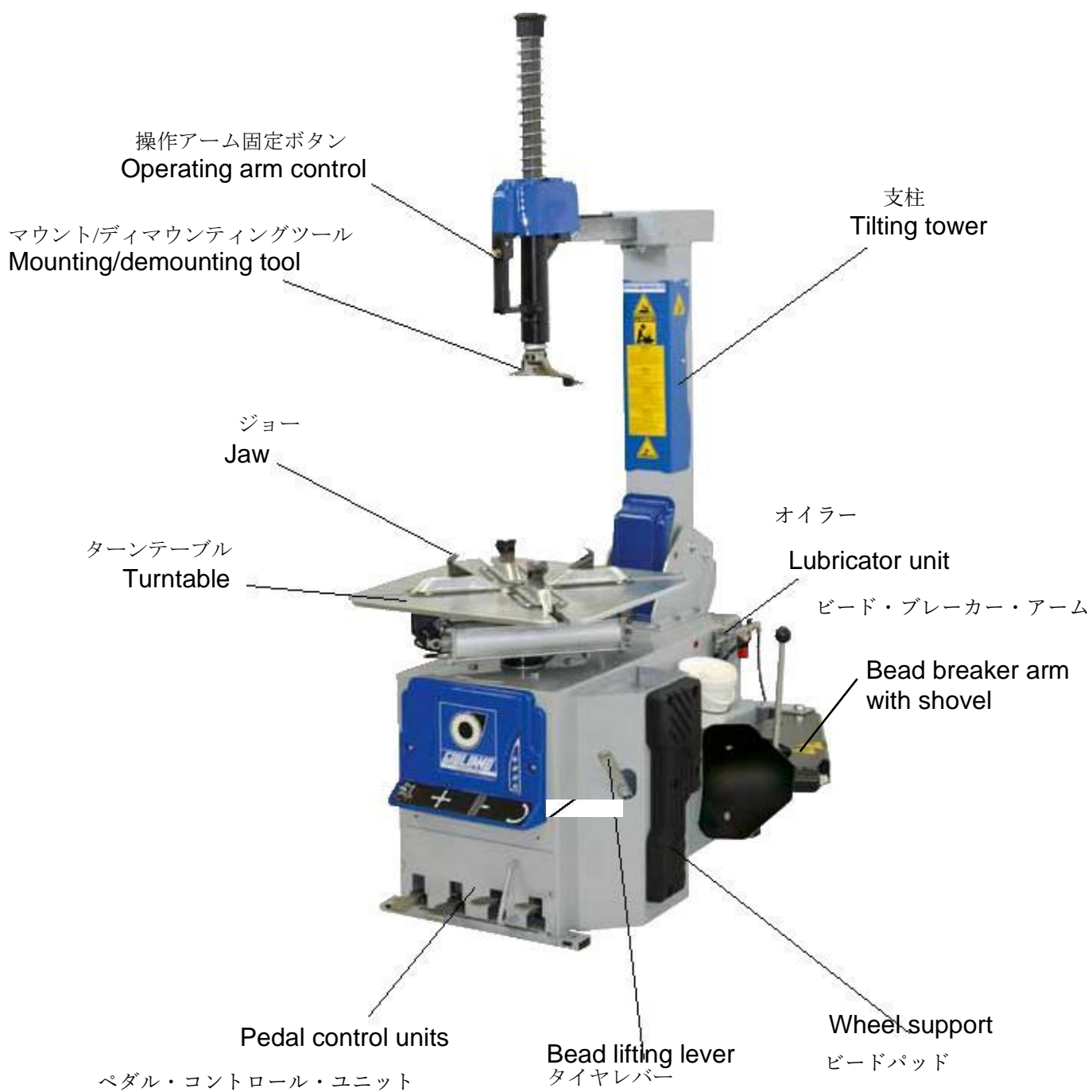
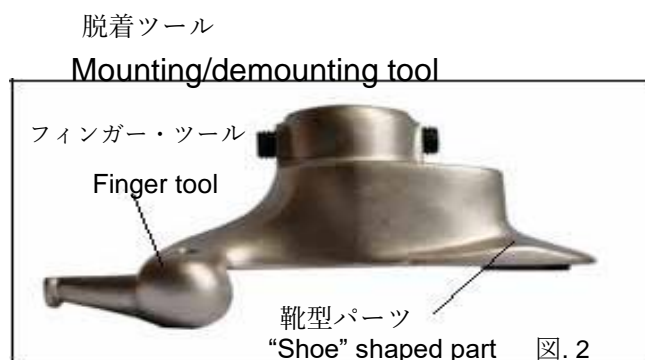


図 1



## 11.0 操作と試運転の表示



- 1- Tilting tower pedal / 支柱転倒ペダル
- 2- Jaws control pedal / チャッキング操作ペダル
- 3- Turntable control pedal / ターンテーブル操作ペダル
- 4- Bead breaker control pedal / ビード・ブレイカー操作ペダル
- 5- Operating arm locking button / 操作アーム固定ボタン



如何なるテストもタイヤを装着せずに行ってください。  
各装置は試験稼働で支障を来たすことが有ります。

## 12.0 作業可能なリムとタイヤ

タイヤを取り外す前に、リムの大きさとタイヤの大きさを必ず確認してください。これはきわめて重要なことで、同様に、リムにもタイヤにも傷や破損が無いことも必ず確認してください。

警告) これらの重要な手続きを正しく行うことで、タイヤを取り外すときや、リムに取り付けたタイヤに空気を充填するときにタイヤが破裂する危険性を少なくすることができます。

リムには必ず直径、幅、ハンプなどのデータが必ず表示されています。

例) **8Jx15H2**

A = 8 幅の規格値 インチ表示 (1 インチ= 25.4 mm)

B = J フランジのサイズ

C = 15 直径の規格値 インチ表示 (1 インチ= 25.4 mm)

D = H2 ダブル・ハンプ (ビード外れ防止エッジ)

全てのタイヤには、外寸、タイプ、最高スピードなどの考慮すべき詳細な情報が記載されています。

例) **205/65 R 15 91H TL**

A = 205 タイヤ幅 (タイヤの側面から反対側の側面までの長さで、通常、単位はミリメートルで表示)

B = 65 偏平率 (パーセント表示)

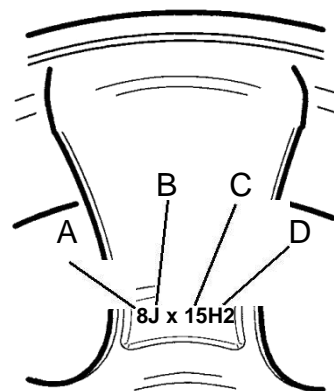
C = R タイヤの構造 (R= ラジアル).

D = 15 直径 (インチ表示) で、リムの直径と同じでなければならない。

E = 91 ロードインデックス

F = H 速度記号

G = TL タイヤのタイプ (TL= チューブレス)

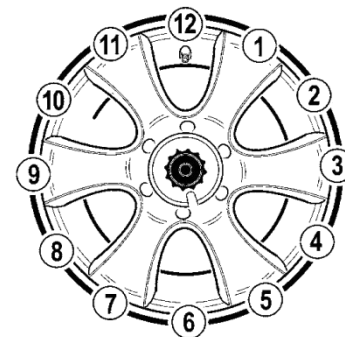


## 13.0 バルブの位置

右の図はリムを時計のように表示しています。

以下の作業手順に時計の時刻表示でさまざまな位置を表現しています。

(例 12時の位置にバルブがくる様にセットする)



### 警告)

バルブと圧力センサーの破損を防ぐために、特に後者が装着されている場合は、常にバルブを示された場所に合わせ、ビード・ブレーカーの脱着作業では必ず指示に従わねばいけません。



### 警告)

タイヤを、そのタイヤの直径と幅に合わないリムに装着することは絶対にしないでください。また、自動車の仕様書に記載されたタイヤの大きさと異なるタイヤを装着することも絶対に行わないでください。

## 14.0 ホイールとタイヤの種類

### 14.1 スタンダード・ホイール

「スタンダード・ホイール」とは、スチール製若しくはアルミホイールで、センター・ホールが有り、中央がリムの高さまで窪んでいる、スタンダード・タイヤ（ラン・フラット・タイヤと扁平タイヤを除く）を装着するものです。

### 14.2 低扁平率タイヤ（UHP）ホイール

扁平タイヤ（UHP）は、高さ（H）と幅（C）の比率が 0.5 以下のもの（例えば「Low Profile 45」は扁平率  $H/C=0.45$  を意味します）をいいます。

扁平タイヤ(UHP)と考えられるものは、Vよりも速い最高速度をもっています。

#### 最高速度コード

Q= up to 160 km/h

U= up to 200 km/h

W= up to 270 km/h

R= up to 170 km/h

H= up to 210 km/h

ZR= > 240 km/h

S= up to 180 km/h

V= up to 240 km/h

ZR(Y)= > 300 km/h

T= up to 190 km/h

### 14.3 ランフラット・タイヤ・ホイール

ランフラット・タイヤは、内部の空気圧が下がっても、あらかじめ設定されている距離まで、予め設定されている速度で自動車を走行し続けることができます。ランフラット・タイヤの要素は製造者間で共有され、現在は2種類の異なったタイプのランフラット・タイヤが市場から求められています。

-強化されたサイドウォール（自助サポート機能）では、異なった混合と強化された構造により、内部の空気圧がゼロになってもタイヤの肩部分で車両の重さを支えることができます。

-内部のリングによる自助サポート機能により、空気圧を失ってもリムはタイヤ側面を支えることができます。この自助サポート機能は、恐らくプラスチック（Pax-System）か金属（サポート・リング）によって生み出されます。

上記のタイヤに該当しないタイヤはすべてスタンダード・タイヤと規定されます。

このタイヤ・チェンジャーはすべての種類のホイールと、スタンダード・タイヤ、を扱うことができます。



#### 警告)

タイヤの脱着作業は、タイヤの破損やキズの発生を防ぎ、延いては自動車や運転者と乗客の安全を守るために、指示にある通りに注意深く行わねばなりません。



## 15.0 操作



作業開始前にはタイヤの空気を抜き、全てのバランス・ウェイトを外してください。

タイヤ・チェンジャーの操作は、大きく以下の3つの工程に分けられます。

- A) BREAKING THE BEAD / ビード落とし
- B) REMOVING THE TYRE / タイヤの取り外し
- C) MOUNTING THE TYRE / タイヤの組み付け

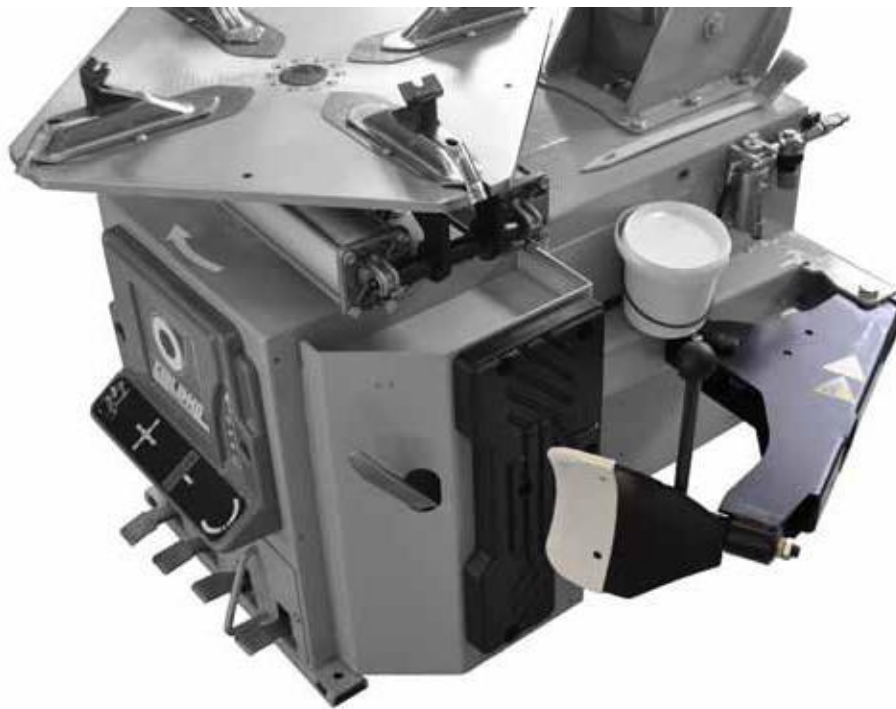
### 注記)

オートバイのリムは特別な合金やカーボンやマグネシウムなど色々な材料で組み立てられていることが多いです。

このような種類のリムにはオートバイのホイール用のアダプター・キットが必要で、変形による取り返しのつかない破損を防ぐためにターンテーブルで空気圧を最高 700 K P A に制限します。

## 16.0 ビード落とし

- 操作を始める前に必ず圧力センサーが無いことを確認してください。



ビード落としの作業中は、圧力センサーが有る場合は、リムのバルブに挿入されているその位置に特に注意してください。

## 16.1 ビード落とし

- 相応しいツールを用いて、リムに傷をつけないよう細心の注意を払いながら、すべてのバランス・ウェイトをリムから外してください。
- タイヤの空気が抜けていることを確認してください。もしも空気が充填されたままでしたら、空気を抜いてください。
- ペダル(2)を踏んでターンテーブル(14)のジョー(13)を完全に閉じてください。ターンテーブルの位置は、そのひとつの平らな側がビードパッド(6)と並行という位置になります。図1



図. 1



ビード落としは慎重に注意深く行わなければいけません。ビード・ブレイカー・ペダルを操作しているときは、ビード・ブレイカー・アームが素早く強く動きます。可動域に入るすべてのものはアームに当たってしまう危険にさらされます。



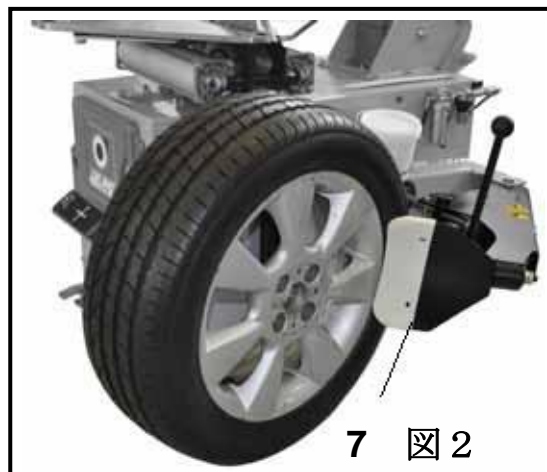
チャッキングジョーが開いた状態でのビード・ブレイキングでは、オペレーターの手がとても危険です。ジョーが閉じられていることを確認し、決して手をタイヤの側面に置かないで下さい。

- タイヤ・チェンジャーの右側に有るゴム製ビードパッド(6)に対するホイールの位置 (図2)

- リムの淵から最短の位置にあるタイヤのビードに対するビード・ブレイカー・ブレードの位置(7)。ビード・ブレイカー・ブレード・プロテクターをアルミリムのために用いてください。ブレードは注意深くタイヤの上で正しく操作され、リムの上で操作してはいけません。

(図2)

- ペダル(4)を踏んでビード・ブレイカーを稼働し、ブレードが動き終わるか、ビードが落ちた時は直ちに解放してください。
- ホイールを回転させ、リムの全周からビードが外れるまで繰り返し作業し、両側のビードを落として下さい。
- ビード落とし中に、タイヤがリムに戻ったりしないよう、またタイヤの取り外しを楽に行えるよう、タイヤに潤滑剤を塗布して動きを滑らかにすることをお勧めします。



7 図2



圧力センサーが装着されている場合、センサーに潤滑剤が付着しない様気を付けて下さい。



注意)

ビード落としの際はブレードでビードを押してください。サイドウォールは押さないで下さい。

## 17.0 チャッキングジョーの調整

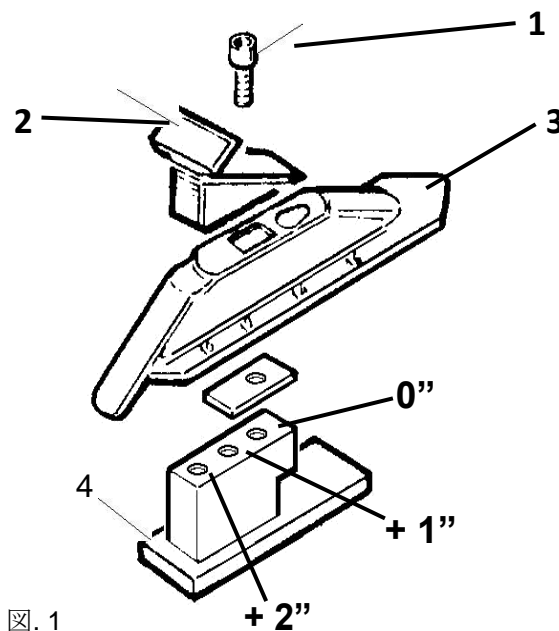
4つのジョーの位置を動かすことによって以下の数値のとおり調整出来ます（図1）

最大2 1インチ（外側からのリム・クランプ）若しくは2 3インチ（内側からのリム・クランプ）まで可能です。

位置を変えるため

- ネジ（1）を8mmの6角レンチで外します。
- チャッキング・ジョー（2）を外し、次に（3）をスライドさせ、それらをガイド（4）のスライドのホールに、要求される寸法に従って再設置します。
- ジョー（2）をネジ（1）で固定します。締め付けるトルクは72Nmです。

注意）上記のステップは、とても重要な事項で、チャッキングのバランスが崩れないように4つの取り付けジョーすべてについて行ってください。



## 18.0 ターンテーブル上でのホイールの固定

ホイールを固定する前に、ペダル（1）を踏んで支柱を倒し、作業する空間を作ってください。



支柱を動かす間はタイヤ・チェンジャーの後ろに誰も入らないよう注意してください。

ホイールの固定（外側）

- ターンテーブル(14)上のジョー(13)の位置を全開状態にして、ペダル(2)を半分（軽く）踏むと、踏んでいる間だけ動き、ペダル（2）を放すとジョーの動きは止まります。適切な位置にジョーをセットします。
- ジョーの上にタイヤを置き、リムを押し下げ、ペダル(2)を踏み下げると、リムはターンテーブルに固定されます。

ホイールの固定（内側）

- ジョー(13)をホイールの大きさに合わせて適当な位置でとめます。
- タイヤをジョーの上に置いてペダル(2)を踏み下げるとジョーが開きリムが固定されます。



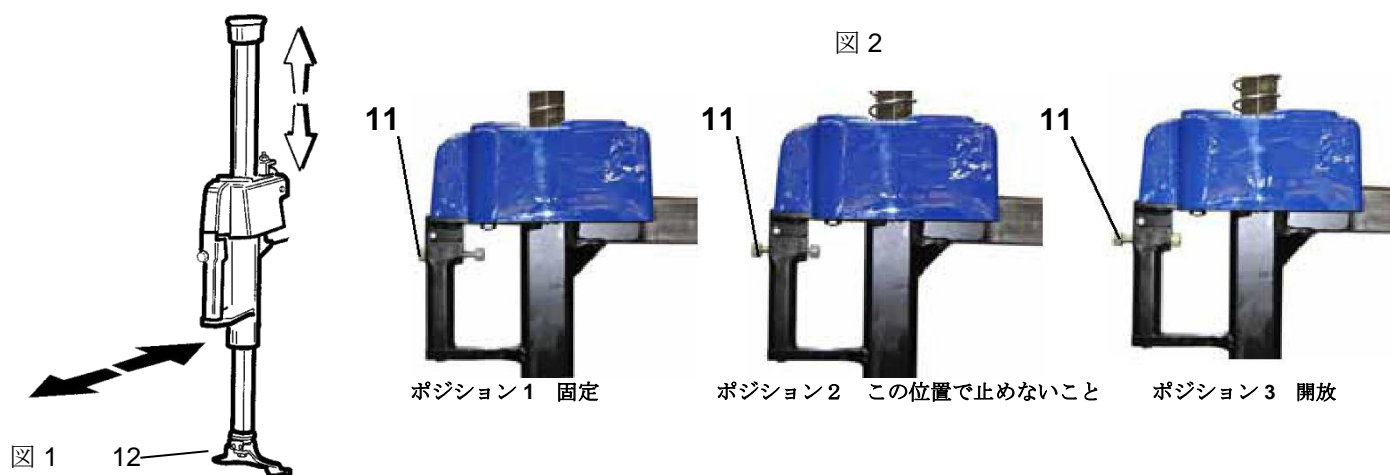
リムを固定する時は、決して手をタイヤの下に入れないでください。正しい固定操作ではタイヤは確実にターンテーブルの中心と同心にセットされます。リムはジョーによってしっかり固定されますので、注意してください。



決して手をホイールの上に置かないで下さい。支柱を作業位置に戻す時、手をリムとマウンティング・ツールの間にはさむリスクがあります。

## 19.0 タイヤの取り外し

・固定ボタン(11)をポジション3にセットします。アームを(図1)のように、マウンティング・ツール(12)がリムの上面の淵にセットされるまで動かします。その後、ポジション1 (図2) にセットされることによって固定されます。この際、マウンティング・ツール(12)が自動的に2mmほどリムから離れて固定されます。



ターンテーブルが回転するときは、可能な限り身体をマウンティング・ツールから遠ざけてください。

・ビードとマウンティング・ツール(12)の間にタイヤレバーを差し込み、タイヤレバーを手前側に倒してビードをマウンティング・ツールの上をめくり上げます(図3)。

注記) バルブを12時の位置になる様セットして作業して下さい。

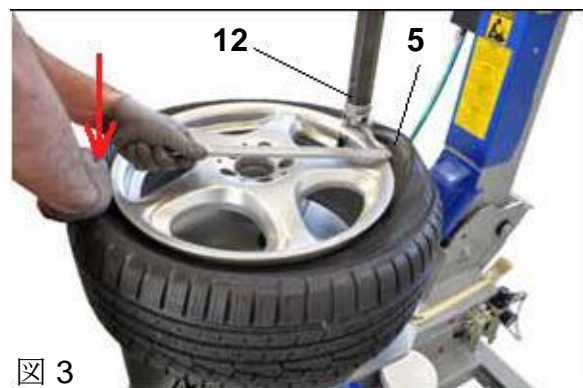


稼働する機械の近くにネックレス、プレスレッド、ルーズな服装、異物などが有ると、それは事故の危険性をオペレーターにもたらします。

・タイヤレバーでビードをめくりやすくする為にマウンティングツールと反対位置のビードを押し込みます。図3

・ペダル(3)を踏み込んでターンテーブル(14)(18ページ図1)を時計回りに回転させ、上側のビードが完全にリムから外れるまで踏み下げ続けてください。ビード、リムを傷めない様に慎重に回転させて下さい。

・下のビードについても同じ作業をリムから外れるまで繰り返します。



## 20.0 タイヤの取り付け

- このマニュアルの 15 ページに指示されている通り、リムとタイヤを注意深く確認してください。
- もしも作業中にリムが外れたり、ずれた場合、再びターンテーブル上に固定し、第 19 章にあるとおり作業してください。

- 注意深くすべてのリムとタイヤビードに潤滑剤を塗布します。
- ホイール周辺の外部も内部もきれいにし、幅については少なくとも 3 cm は必要です。

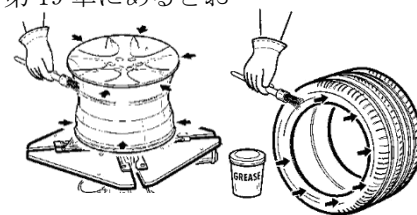


図 1



圧力センサーが装着されている場合、センサーに潤滑剤が付着しない様気を付けて下さい。



### 20.1 下ビードの取り付け (13 ページ、15 ページ 参照)

- タイヤをリムにのせて 12 時方向に傾けリムの下に来るようにセットします。
- ペダル 1 を踏み下げて支柱を起しマウンティングツールをリムの淵に合わせます。

- タイヤの 3 時の位置を下に傾け、下ビードが靴型パーツに乗り、且つフィンガーツールの下にビードがくる様セットします。図 2



図 2



ビードが靴型パーツ (左部分) に乗っかりつつ、ビード右部分はフィンガーツール (右部分) の下くるようにセットする事。

- ペダル (3) を踏んで時計回りにタイヤが回転している間、タイヤの 5 時の位置を拳で押して下ビードがドロップセンターに落ちる様になります。回転動作と一緒に拳が 8 時の位置に来るまでビードをドロップセンターまで押し込んで下さい

### 20.2 上ビード・マウンティング (13 ページ、15 ページ参照)

- マウンティングツールの位置は変えないで下さい。タイヤを 3 時の位置で下に傾け、ビードが靴型パーツに乗り且つフィンガーツールの下にくるようセットします。

図 3



**OK**



**NO**

ビードは靴型パーツの上、且つ、フィンガー・ツールの下という正しい位置に有ります (13 ページの図 2)。

ビードは正しい位置になく、靴型パーツとリム・エッジの間に挟まれ傷んでいます。



ビードが靴型パーツ（左部分）に乗っかりつつ、ビード右部分はフィンガーグツール（右部分）の下くるようにセットする事。 図3

-ペダル（3）を踏んで時計回りにタイヤが回転している間、タイヤの5時の位置を拳で押して下ビードがドロップセンターに落ちる様にします。回転動作と一緒に拳が8時の位置に来るまでビードをドロップセンターまで押し込んで下さい（図4）。



図3



図4



注意) 指をビードとリムの上に挟む事故につながらない様この作業は手を拳にして行って下さい。リムとタイヤが常に一緒に回転しているか注意してください。

注記) 作業時の回転は常に時計まわりの方向で行われます。

反時計回りに回転させる作業は作業者の作業ミスを修正する時のみです。

## 21.0 空気充填



タイヤへの空気充填は注意深く行わねばなりません。下記の指示は必ず読まれねばなりませんし、忠実に実行されねばなりません。タイヤ・チェンジャーは完全にオペレーターを守るよう設計されていません。タイヤが破裂する事故が生じる可能性もあります。



注意) タイヤ・ビードが330KPAでも上がらなかったときは、一度ビードを落として潤滑剤を塗布してから、再度装着作業を行います。

**▲ DANGER**

タイヤが破裂したり、リムが加圧されて壊れたときは、オペレーターは大けがを負うことがあります。最悪の場合は死亡することもあります。リムとタイヤのサイズが同じであることを必ず確かめてください。

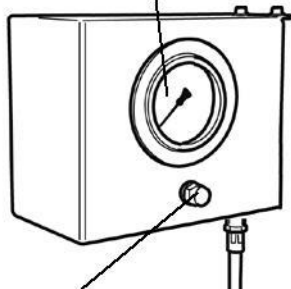


また、タイヤとリムの状態に異常がないことを、空気を充填する前に確認してください。少しずつ空気を充填し、圧力をこまめに確認してください。



このタイヤチェンジャーは空気充填の圧力をレギュレーターで350KPAに制限しています。しかし、レギュレーターは爆発や破損のリスクを回避する安全装置ではありません。タイヤ・メーカーが推奨する上限圧力を越えてはいけません。空気充填中は、出来るだけタイヤから離れてください。

Pressure gauge  
圧力計



Deflate button

空気抜きボタン

図 18

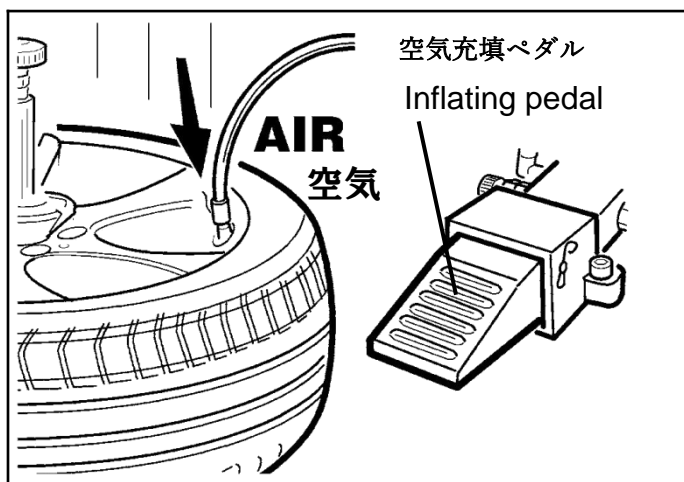


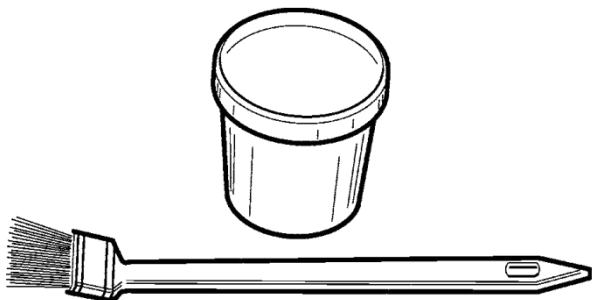
図 20

- 空気充填ホースをタイヤのバルブに繋ぐ (図 20)
- リムとタイヤが同じサイズであることを確認する
- リムとタイヤは潤滑剤が塗布されている
- 空気充填ペダルを継続的に踏み、タイヤのビードがリムに完全にフィットするまで圧力計をこまめに確認する(図 18)。
- タイヤ・メーカーが推奨する圧力まで空気の充填をする。常にこまめに空気を充填し、常に圧力の上昇を確認する。
- 空気充填中、空気圧がタイヤ・メーカーの推奨する値を越えそうな場合は、空気抜きボタンを押します。

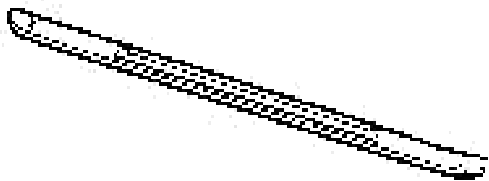
注記) チューブレス・タイヤに空気を充填しているときにタイヤが膨らまない (ビードが上がらない) ことが時々あります。その場合、GTインフレーターをご使用下さい。

## 22.0 標準備品

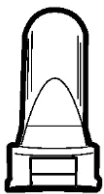
### 機械の付属品



-ビードワックス  
-ブラシ



-タイヤレバー



X 4

-チャッキングプロテクター



X 3

-マウント/ディマウントツールプロテクタ  
右側



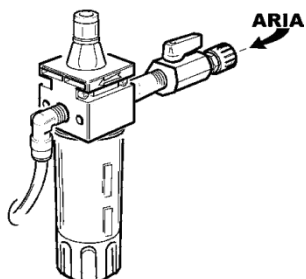
X 3

左側



X 2

-ビードブレーカーブレードカバー



- オイラー



## 23.0 オプション備品



**ROLL**  
ローラー・プレート



**RJP**  
ゴム板付ジョー・プロテクター



**MOTO-AD**  
二輪車用アダプター, 6"~24" (ネジ固定式) .



**ATV-AD**  
ハーレー・ダビッドソン用アダプター 6"~24" (ネジ固定式)

## 24.0 再設置

タイヤ・チェンジャーの設置場所を替える場合は、最初に移動する機械・パーツを確認します。電源や圧搾空気などの供給元との接続を遮断し、このマニュアルの第9章に記載された設置導入作業を新たな設置場所で行います。

電源への接続と、安全装置の接続と点検は機械の操作に習熟したオペレーターが行います。

## 25.0 保管

タイヤ・チェンジャーを長期間保管する場合

- 電源を遮断してください。
- エアを遮断し、エアタンクを全て空にしてください。
- ホコリなどで障害を受けないよう、部品を保護してください。
- 乾燥しないよう、必要なパーツにはグリースを塗ってください。

長期保管されていたタイヤ・チェンジャーを再稼働させる場合

- このマニュアルの第9章に従って再導入してください。
- 不良品がありましたら新品と交換してください。スペア・パーツ・リストから、機械の操作に習熟したオペレーターが判断して選択してください。

## 26.0 廃棄処分

タイヤ・チェンジャーを廃棄する場合は、電源関連パーツを取り外して使用不可にし、タンクを空にして、各国の法規に従ってそのほかの廃棄できる消耗品などは廃棄してください。タイヤ・チェンジャーは多くの成分から構成された機械ですから、分解して同じ種類の部品ごと（例えば電気部品、金属、プラスチック、その他など）に分別して、廃棄する国の法規に従って廃棄してください。



警告) イタリア環境省令 RAEE と EU ROHS 指令 に準拠して廃棄処理を行って下さい。

## 27.0 オイルの処理



オイルは環境汚染物質です。屋外に投棄したり、地面に流したりしてはいけません。各国の法規に従って、オイルを濾してオイルの廃棄を請け負う廃棄処理センターへ送ってください。

### 一般的注意事項

- 肌に直接、長い時間、触れないこと。
- オイルの霧を拡散させないこと
- オイルを飛び散らさないこと
- 相応しい服装で、手袋とゴーグルを着用しオイルの飛沫を防ぐこと
- オイルまみれの服は着ないこと
- オイルで汚れた手で食事をしたり、喫煙したりしないこと

### 応急処置

- オイルを吸い込んだときは、吐かせようとしてはいけません。すぐに最寄りの病院に連れて行き、吸い込んだオイルの種類や量を医師に報告してください。
- オイルが目に入った場合は、刺激や炎症が無くなるまで水で十分に洗い流し、最寄りの病院に連れて行きます。
- オイルが皮膚に着いたら、中性石鹼と水で十分に洗い流します。溶剤や刺激性のあるものを使ってはいけません。

### 使用済みオイルの廃棄

屋外に使用済みオイルを捨てたり、地面に流したりしてはいけません。

廃棄容器に溜めてオイルを廃棄処理する廃棄センターに送ります。あるいは、廃棄オイルの収集業者に引き渡します。

### オイルの流出や漏れ

漏れの原因を除き、汚染が広がらないよう吸収性のあるものでオイルの流出を止めます。オイルが流れ出したエリアを脱脂性の洗浄剤で清掃し、滑らないようオイルをふき取り、諸法規に従ってオイルとゴミを廃棄センターに送って廃棄します。

## 28.0 保守点検作業

### 28.1 通常点検作業

定期的保守点検作業は以下の指示に従って行われ、タイヤ・チェンジャーの正しい操作と正常な稼働を長持ちさせるために非常に重要です。



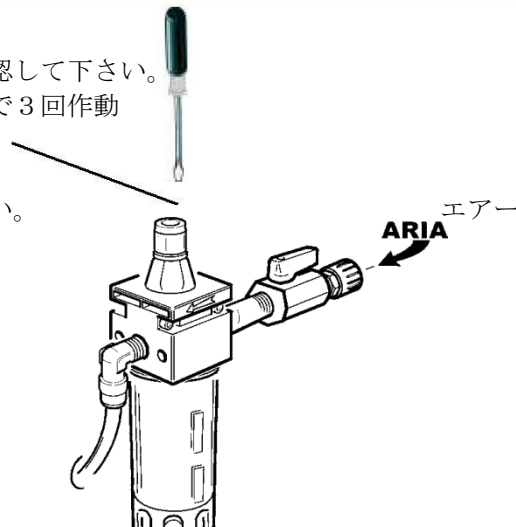
保守点検作業を始める前には、電源を切り、圧搾空気の供給源も止めます。  
タイヤチェンジャー内の圧縮空気を完全に抜きます。

- 日常的には、機械を清潔にし、カビやホコリが付かないようにし、ターンテーブルのスライドとツール類が完璧に稼働するように保ちます



- 日常的に各種プラスチック・プロテクター、カバーに摩耗や破損がないか確認して下さい。  
- 摩耗や破損が確認されましたら、それらを新品と交換してください。

- 作業前にオイルが適正量出ているか確認して下さい。  
(ビードプレーカーをフルストロークで3回作動させて、オイルが1滴落ちれば適正量です。) 調整が必要な場合は調整ビスをドライバーで回してください。



- 定期的には、オイル・レベルが MIN と MAX の間に有るか確認し、必要なときはネジを開けて上からオイルを補充して下さい。(ISO HG (i.e. ESSO Febis K32; MOBIL Vacou-line Oil 1405; KLUBER Airpress 32))

- 定期的にターンテーブルのスライド・ガイドをナフサとループ、オイル、グリースできれいにします。同様の保守作業をすべての接続部や可動部に行います。



- 定期的にモーターで駆動させているベルトの張力を調べます。必要ならば 13mm レンチを用いてモーター・プレート・サポートの取り付けボルトを緩めて、ベルトの張り具合を調整し、固定ボルトを締めて調整します。

### 28.2 特別点検作業

- 定期的ではない点検は、工場で認められた工具だけが行います。  
- 不良部品は工場で承認された行員により新品と交換されます。



製造メーカーは、純正パーツ以外のパーツが使用され、あるいはパーツや安全装置を外したことによる不良品や故障の発生には責任を持ちません。安全装置（安全弁・レギュレーターなど）を外すことはEUが定めた安全基準を犯すことになります。

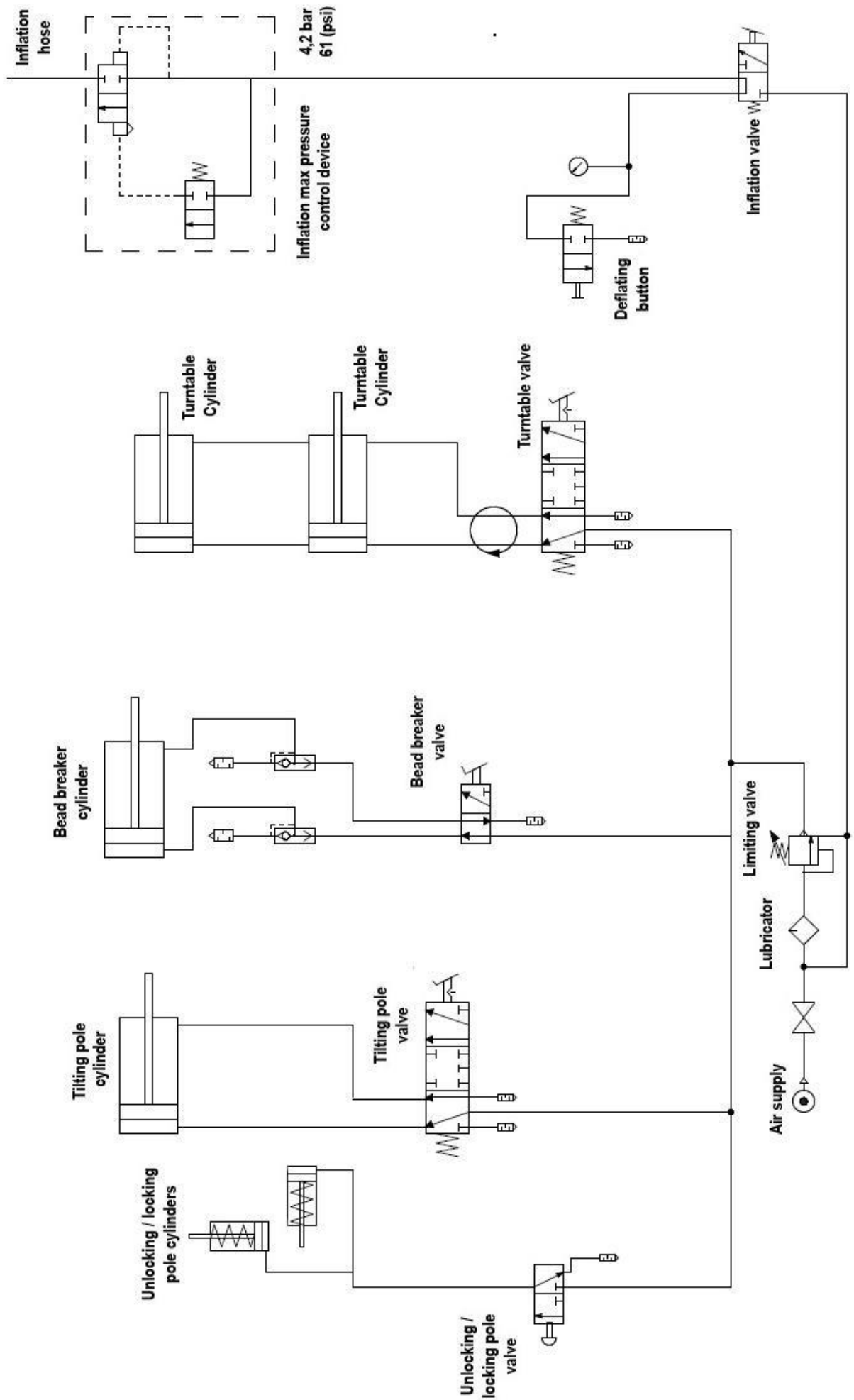
## 29.0 TROUBLESHOOTING CHART

PROBLEM	CAUSE	SOLUTION
The turntable does not turn	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) The power supply is missing;</li> <li>2) Machine has not plugged correctly;</li> <li>3) The fuses have blown;</li> <li>4) The belt is loosened or broken;</li> <li>5) The motor pulley is unscrewed;</li> <li>6) The motor drive is not working properly;</li> <li>7) The motor is defective or damaged.</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) Check the wall socket;</li> <li>2) Check the machine plug is connect properly or if the plug wires are well connected.</li> <li>3) Replace the fuses;</li> <li>4) Tension or replace the belt;</li> <li>5) Tighten the pulley screw;</li> <li>6) Re-connect the foot control;</li> <li>7) Replace the motor.</li> </ol>
The spindle rotation motor rotates at one speed only  <b>(3ph 400V motor version)</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) The inverter is damaged;</li> <li>2) The inverter wires are not connected;</li> <li>3) The motor is damaged;</li> <li>4) The motor wires are not connected.</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) Replace the inverter;</li> <li>2) Check the inverter wires are connected properly;</li> <li>3) Check the motor short-circuit and replace it;</li> <li>4) Check the motor is wired correctly.</li> </ol>
The spindle turns continuously <b>(3ph 400V motor version)</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) The inverter is damaged;</li> <li>2) The foot-control spring is damaged.</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) Replace the inverter;</li> <li>2) Replace the foot-control spring.</li> </ol>
Bead breaker does not move or it does but very slowly	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) The air supply is missing;</li> <li>2) The control valve is damaged;</li> <li>3) The silencers are blocked;</li> <li>4) The cylinder seal is damaged;</li> <li>5) The pilot valve is damaged or defective.</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) Check the net pressure;</li> <li>2) Replace the valve;</li> <li>3) Clean up the silencers or replace them;</li> <li>4) Replace the seals;</li> <li>5) Replace the valve.</li> </ol>
Clamp slow to open/close	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) No pneumatic supply;</li> <li>2) Silencer clogged.</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) Check pneumatic pressure;</li> <li>2) Clean or replace silencer.</li> </ol>
Turntable does not lock the wheel rim Correctly	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) No pneumatic supply;</li> <li>2) Clamps worn;</li> <li>3) Turntable cylinder(s) defective.</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) Check pneumatic pressure;</li> <li>2) Replace clamps;</li> <li>3) Replace the seals.</li> </ol>
Pedals lock out of working position	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) Return spring broken</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) Replace spring</li> </ol>
The tool does not move vertically	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) The air supply is missing;</li> <li>2) Supply pipes broken or squashed;</li> <li>3) Control valve is damaged;</li> <li>4) The silencers are blocked;</li> <li>5) The cylinder seal is damaged.</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) Check net pressure;</li> <li>2) Replace the supply pipes;</li> <li>3) Replace the valve;</li> <li>4) Clean up the silencers or replace them;</li> <li>5) Replace the seals.</li> </ol>
The inflating device does not work	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) The air supply is missing;</li> <li>2) The control valve is damaged;</li> <li>3) The pressure limiter valve is damaged.</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) Check the net pressure;</li> <li>2) Replace the valve;</li> <li>3) Replace the valve.</li> </ol>

PROBLEM	CAUSE	SOLUTION
The vertical arm does not move or it moves slowly or too fast	1) The silencers are blocked; 2) The silencers have not been adjusted; 3) Foot control release spring is damaged; 4) The compressed air supply is missing; 5) Column sleeve too loosened or too tighten	1) Clean up or replace the silencers; 2) Adjust silencers; 3) Replace foot control release spring; 4) Check or restore pneumatic supply; 5) Adjust column sleeve.
The working tool touches the rim during mounting operations	1) The clamping plate has not been adjusted properly or is defective; 2) The unlocking plate springs are damaged.	1) Adjust or replace the locking plate; 2) Replace the unlocking plate springs.

## 30.0 電気回路図 200V 3 相 1 スピード

### 31.0 空压回路图



## 32.0 設置記録

設置日	セリアル番号
設置業者	
購入先	
ノート	

輸入発売元 (株)プレミアタイヤサプライズ  
東京都新宿区新宿1丁目25-14 第二関根ビル2F  
Email [Info@premajapan.co.jp](mailto:Info@premajapan.co.jp)  
URL [www.premajapan.co.jp](http://www.premajapan.co.jp)